

令和4年度第1回 循環・自然環境分科会
前回(第1回10/5)行った議論・意見交換の追加意見

点線:用語解説を資料4に付けています。

下線太字:ご発言のうちご意見・課題に関する部分

※敬称略

■第1回分科会の議論に対する追加意見等

(1)課題抽出にあたって現況等の共有

- ・ 近藤:国や都の動き、多摩市の現況等、よく把握できていると思います。
- ・ 江尻:集合住宅が多い多摩市では生ごみの堆肥化に取り組んでも使う方法を見いだせず断念する人が多い。段ボールコンポストの普及には賛成だが、できるだけ乾燥させて可燃ごみに出すなど誰でも取り組めるごみ減量方法の普及が必要。
- ・ 江尻:野鳥による糞害のため樹木を伐採するという選択肢を取っているところがある。またカラスにつつかれるなどの被害が出ている。街路樹の保全との関係が難しい。

(2)主要課題の抽出

- ・ 近藤:民有樹林の永続的な保全、公園の長寿命化、街路樹の管理等、概ね抽出されていると思います。
- ・ 江尻:どうしても出てしまう生ごみと本来ならば捨てずに済む食品ロス。それぞれの対策についての啓発が必要。エシカル消費の普及により、ものの選び方、買い方を考え行動できる市民を増やす。

(3)その他

- ・ 近藤:多摩地区にある大学や研究機関との連携の記述があると良いです。
- ・ 穴吹:分科会における発言のとおり、高齢市民についての配慮、災害対応型緑地の整備及び評価手法の確立について、課題があると考えております。また、現時点では新たな課題は思い浮かびません。10年先ですと、技術の進歩、外的要因(コロナや戦争等)の不確定要素が多々存在しますので、計画の実行に大きな影響を与える事象が起こった時点ですみやかに対応するほかないのではと考えます。あえて付け加えるとしますと、コロナ下における市民参加(集団)活動の実施方法についての検討(資料4 その2 環境情報①)等(理由)withコロナ下での変化した暮らしが続くことを前提とした課題、たとえば、家庭で過ごす時間の増大、郊外での暮らしの相対的優位性による人口増等の要因は、家庭ごみの減少が見込めない一方で、地域での取り組みに参加する時間的余裕が増加すると予測されますので、計画への参加の機会増大を進めるべく、コロナ対応の観点から横断的な取り組み項目を掲げてはいかがでしょうか？

以上